

## 第3章 評価の結果



# 1. 評価の概要

## (1) 数値目標達成結果から

### 【第3期（平成23年度～平成26年度）】

「健康なまち習志野」目標項目の実績値推移をみると、「めざす姿」の目標値として掲げた50項目のうち、健康意識調査等で調査を行っていない項目（高校生調査等）を除いた36項目のうち、実績値が第2期より改善した項目は、約53%の19項目でした。

特に、「定期的のがん検診を受けている親子（16.7%増加）」、「歳をとっても安心して暮らせるまちと思う人（14.4%増加）」、「ごみのマナーを必ず守っている20歳代（13.3%増加）」、「ごみが落ちていないまちと思う人（10.5%増加）」などで評価できる結果となっています。

しかし、「健康づくりのための運動を実行している人（7.4%減少）」、「自分以外の人に優しく接している成人・高齢者（3.7%減少）」、「周囲に悩み事等をうちあけられる人がいる60歳以上の人（3.7%減少）」などの項目が第2期より悪化しています。

### 【計画策定時から第3期終了時（平成16年度～平成26年度）】

「健康なまち習志野」目標項目の実績値推移をみると、「めざす姿」の目標値として掲げた50項目のうち、目標を達成した項目数は全体の30%の15項目、実績値が改善した項目数は全体の約80%の38項目でした。一方、実績値が改善しなかった項目は、全体の20%の10項目でした。

各領域の目標項目の数はそれぞれ異なりますが、目標を達成した割合が多いのは、「地域活動」「暮らしやすさ」「環境」の領域で、実績値が改善しなかった割合が多い領域は、「食生活」「心の健康」「日頃の健康づくり」でした。

#### ●目標を達成した項目と実績値が改善しなかった項目

領域	目標を達成した項目	実績値が改善しなかった項目
1. 日頃の健康づくり（26項目中）	目を開けた状態で何もつかまらずに片足で立っている高齢者（65～74歳男性） ※第2期実績値	健康づくりのための運動を実行する人
	定期的のがん検診を受ける、1歳6か月児及び3歳児健康診査を受診する児の保護者	目を開けた状態で何もつかまらずに片足で立っている高齢者（65～74歳女性）
	子どもの定期予防接種実施率	健康に関する情報入手を実行している人
	自分以外の人にやさしく接している、1歳6か月児及び3歳児健康診査を受診する児の保護者	性感染症について知っている高校生（エイズ・クラミジア・淋病） ※第2期実績値

	3歳児のむし歯のない人	自分以外の人に優しく接している、 成人・高齢者
	在宅の介護保険申請者で相談できる かかりつけ歯科医を持っている人 ※第2期実績値	—
項目中 2. 食生活 (7)	毎日朝食を食べる小学生	食事バランスガイドについて内容を 知っている人
	—	外食及び食品購入時に栄養成分表示を 見る人 (20～69歳男性)
(4項目中) 3. 心の健康	—	ストレスを感じたととしてもそれを 解消できている人
	—	楽しい人間関係づくりを必ず 実行している人
(4項目中) 4. 地域活動	健康づくりに関連する、市民ボランティ ア数	ボランティ活動を実行している人
	地域や地区で協力、助け合いができる まちと思う人	—
(4項目中) 5. 暮らしやすさ	障がいを持った人が生活しやすいまち と思う人	—
	歳をとっても安心して暮らせるまち と思う人	—
	犯罪や交通事故の少ないまちと思う人	—
(5項目中) 6. 環境	ごみが落ちていないまちと思う人	—
	ごみのマナーを必ず守っている30歳代	—
	水や空気がきれいなまちと思う人	—

## (2) 6つの領域ごとの取り組みと課題

めざす姿別の評価シートに基づき、目標の達成状況と評価、目標に関連した施策、今後の課題について、以下のとおりまとめました。

### ①領域1「日頃の健康づくり」

#### ア. 達成状況と評価

- 歩くことの重要さの認識については少しずつ増加しているが、高止まりの傾向がみられます。
- 運動を実行する人の割合は計画策定時と変化がありませんでした。30歳代・

40 歳代の実行率が他の年代より低いことや、運動ができる条件として半数以上の人が時間があれば、と回答していることから、多忙な勤労者の身体活動量が低いことが想像されます。

- 健康に関する情報の入手をしている人の割合は策定時より低下しています。入手していない割合が高いのは、20 歳代、会社員、公務員、家計の苦しい世帯などです。20 歳～40 歳代の健康情報入手先はインターネット、本、雑誌が多い状況です。
- 定期的ながん検診を受けた乳幼児を持つ母親の割合は目標を達成しています。様々な場面での健診の重要性に対する周知の効果があつたと思われます。
- 3 歳児のむし歯のない人の割合が目標を達成し、むし歯予防に対する保護者の関心や意識が高まっています。かかりつけ歯科医を持って定期健診を受ける人の割合は増加し、健康管理的な受診が増えています。

#### イ. 指標に関連した主な施策

- ハミングロード再生実施プラン
- オール習志野歩け歩け大会の開催
- ウオーキングマップの活用
- 勤労福祉施設の開放
- 障がい者へのスポーツ活動に関する情報提供
- 広報でのお知らせ、ホームページ情報の充実
- 国民健康保険加入者への人間ドック費用助成、がん検診・成人歯科健康診査
- ママ、パパになるための学級
- 小・中・高等学校での定期歯科健康診査

#### ウ. 課題

- 運動の重要性を理解していても行動に移せない人々に対する仕掛けを検討する必要があります。
- 健康づくりに関する情報については、市ホームページを含めた情報提供の方法の工夫が課題です。
- 歯科受診しやすい環境づくり、歯科受診のきっかけづくりが必要です。

## ②領域 2 「食生活」

### ア. 達成状況と評価

- 毎日朝食を食べる小学生の割合は目標を達成し、栄養成分表示を見る女性の割合は増加しています。
- 食事バランスガイドの内容を知っている人の割合や栄養成分表示を見る男性の割合は計画策定時より低下しています。
- 各機関で健康的な食習慣の形成・実践や食育の推進に向けた取り組みをすすめており、部分的には改善が見られましたが、全体的には実践に結びつけるための働きかけが不十分でした。

イ. 指標に関連した主な施策

- 習志野市保育所年齢別食育計画表作成、家庭での食事アンケートの実施
- 離乳食教室
- あじさい療育支援センターで「たべものだより」の配布、保護者の調理実習
- 料理教室の開催

ウ. 課題

- 地域の普及・啓発に合わせて、各個人が実践できるように具体的に働きかけていくことが必要です。
- 各年代ごとに切れ目ない取り組みが進められるように、各関係機関が連携をとりながら推進していくことが必要です。

③領域3「心の健康」

ア. 達成状況と評価

- ストレスを感じても解消できている人の割合は計画策定時よりも減少しています。無職、自営業、非正規雇用の人が平均より高い傾向にあり、経済情勢の変化や雇用や仕事の安定が関係していると推察されます。ストレス解消が全くできていない人の割合は趣味や楽しみがない人や家計の苦しい世帯に高い傾向がみられます。
- 楽しい人間関係づくりを必ず実行している人の割合は計画策定時よりも減少しています。実行できていない人の割合は男性に高く、また、健康状態のよくない人や家計の苦しい世帯にも高い傾向がみられます。
- 仲間づくりに関する市の取組みについては、目標を達成し推進できています。

イ. 指標に関連した主な施策

- 健康に関する本の提供
- 職員研修事業（接遇）
- 地域デビュー支援事業
- ステップならしの（男女共同参画センター）の運営
- 4か月児健康相談
- 高齢者のクラブ活動
- 福祉センターでのサークル活動
- 各公民館での講座・文化祭の開催、サークル活動の支援

ウ. 課題

- こころの健康に影響する雇用の安定について何らかの取り組みが必要です。
- 地域のつながりを大切にされた働きかけをすることが必要です。
- 仲間づくりに関する取組みを今後も継続しながら、こころの健康を崩しやすい人々に対するアプローチを検討する必要があります。

#### ④領域4「地域活動」

##### ア. 達成状況と評価

- 養成講座を開催し健康づくりに関するボランティアの増加に努めると同時に、活動を支援したことにより、登録数が増加し目標を達成しています。
- 地域に根差した参加交流の機会や、市民、地域、学校、企業、行政などの主体が連携して地域の課題解決に向けて協力できるような取組みはおおむね進みました。
- 地域や地区活動に参加することを大切だと思える人は約半数程度であり、その中で実際に参加している人はさらに半数でした。参加しているのは70歳以上や専業主婦、自営業の人など地域で過ごす人に多い傾向があります。

##### イ. 指標に関連した主な施策

- 健康づくり推進員・転倒予防体操推進員
- 高齢者相談員
- 習志野市民カレッジ
- ファミリー・サポート・センター各運営事業
- 福祉ふれあいまつり
- 健康フェア
- 子ども会
- 町会・自治会活動への支援
- 献血
- 障がいについての正しい知識の普及
- 学校支援ボランティア

##### ウ. 課題

- 若い世代や会社員など普段地域と接点の少ない人々の声や考えを取り入れた取組みの検討をする必要があります。

#### ⑤領域5「暮らしやすさ」

##### ア. 達成状況と評価

- バリアフリー化や安心安全なまちづくりに向けた取組みは進み、目標を達成しています。
- 安心して医療が受けられる、かかりつけ医を持つ人の割合も、機会を捉えて大切さを伝えている結果、ほぼ目標に近づいています。

##### イ. 指標に関連した主な施策

- 放置自転車の撤去
- 習志野市バリアフリー基本構想策定事業
- 応急手当普及啓発推進事業

- 防犯パトロールの実施等
- 事故防止に関する健康教育
- 各地区の消防団の活動
- 健康に関する事業

#### ウ. 課題

- より暮らしやすいまちとなることをめざし、継続して取り組んでいく必要があります。

### ⑥領域6「環境」

#### ア. 達成状況と評価

- ごみが落ちていないまちと思う人が計画策定時より大幅に増え、目標を達成していると同時に、ごみのマナーを守っている人も大幅に増加しました。一部達成できていないところもありますが、今後同様の取り組みを継続していくことで達成が期待されます。
- 市民と一体になったごみに関する取り組みという点では、若い世代の参加が少ない傾向があります。また、ごみ箱が設置されていない公園等に利用者がごみを置いていくなど、地域住民から問題視されている現状があります。
- 水や空気がきれいなまちと思う人が計画策定時より大幅に増え、目標を達成しています。規制により公害問題が発生せず、公共下水道の整備により自然環境の保全を図ったことが要因として考えられます。
- 環境の保全に関する市民の取り組みや意識の向上も要因として考えられます。

#### イ. 指標に関連した主な施策

- ごみゼロ運動、歩きたばこ・ポイ捨て防止キャンペーンの実施
- 芝園清掃工場、リサイクルプラザの見学や職場体験
- 公共下水道の整備
- 谷津干潟の保全事業
- 大気汚染物質の監視および工場等への規制

#### ウ. 課題

- 今後もごみの落ちていない環境の中で気持ちよく快適に暮らせるよう、事業を継続して行っていく必要があります。
- ごみ箱の設置や住民・利用者のマナーの向上など、複合化された問題について検討していく必要があります。
- より快適な生活環境にしたいという市民の思いを実現するために、引き続き取り組みを進めていく必要があります。



## 2. 評価方法別の結果

### (1) 健康意識調査

#### ①一般調査

- 家計が「全く・それほど心配がない世帯」が59%、「やや・非常に心配のある世帯」が36%
- 計画を「内容まで・名前まで知っている」割合は32.2%（前回より15.6%増加）  
条例の認知度は21.6%
- 「日ごろから健康のために身体を動かしている」割合が減少
- 「バランスの取れた食生活をしている」割合は全国より低い
- 「習慣的に喫煙している」割合は全国より低い
- 「生活習慣病のリスクがある飲酒をしている者」が全国より多い
- 歯科医院の受診割合は変わらないが、「健診目的の歯科受診をする者」が増加
- 「不満・悩み・ストレスの有無」の割合は増加。「家計が苦しい世帯」は不満等の「あった」割合が高い。「解消できているか」は半数近くが解消できている。「まったく解消できていない」割合が高いのは「趣味や楽しみがない人」「家計が苦しい世帯」
- 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者が全国より多い  
中でも「男性」、「20歳代～30歳代」
- 周辺地域の人とのつながりが「強いほう・どちらかといえば強いほう だと思う」割合は、全国より少ない
- 健康とは「心身ともに健やかなこと」「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」
- 「子どもがのびのび育つまち」の満足度が高い。「ごみが落ちていないまち」の満足度が低い

#### ②親子調査

- 「職業」は専業主婦が66.5% 「暮らし向き」は家計が「全く・それほど心配がない」世帯が約60%、「やや・非常に心配がある」世帯が38%。家族構成は核家族が約92%
- 計画を「内容まで・名前まで知っている」割合は30.8%（前回より15.7%増加）  
条例の認知度は13.4%
- 「日ごろから健康のために身体を動かしている」割合が減少
- 「バランスの取れた食生活をしている」割合は一般調査より低い
- 家庭内での喫煙の状況では、「だれも吸わない」が前回より増加。分煙していないのは4.5%
- 「妊娠中に歯科検診を受けなかった」者は4割。理由の大半は「忙しくて」
- 「妊娠中から産後3か月くらいの中に、気分が沈んだり、涙もろくなったり、無気力になったり」が「あった」割合が28.5%。中でも、1人目のお子さんの場合は

37.5%と高い

- 「育児についての相談相手」はほとんどが「いる」
- 「夫やパートナーの協力の仕方への満足度」に「満足していない」は約23%  
中でも、「家計が苦しい世帯」の4割は「満足していない」
- 「周辺地域の人とのつながり」が「強いほう・どちらかといえば強いほうだと思う」  
割合は、一般調査の現状値より高い
- 健康とは「心身ともに健やかなこと」「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」  
と考えている
- 「子どもがのびのび育つまち」の満足度が高い。水や空気がきれいなまち」の満足  
度が低い。

### ③事業所調査

- 「業種」は小売・サービス業で45%。「従業員数」は5人未満が46%  
「最近1年間の業況」は収支ほぼ均等が約47%、「販売先」は約半数が一般消費者
- 計画を「内容まで・名前まで知っている」割合は36.2%、条例の認知度は26.6%
- 「従業員のからだと心の健康状態」については、「全てではないが良好な従業員の方が多い」と認識している割合が6割を超えている
- 「健康対策を行うスタッフ」が「いない」事業所が76%。
- スタッフがいる事業所と比べて、いない事業所は健康づくりに取り組む率が全般的  
に低い。
- 現在実施していないが、「健康相談の体制づくり」「研修や講演」など、「今後した  
い」との回答が30%を超えている取り組みが6つあった
- CSRの認知度は42%  
「地域社会への参画、発展への寄与」もCSRであると46.8%が考えている
- 「地域社会への参画などの取り組み」を「行っている」事業所は45%  
取り組まない理由は人手不足
- 消費者、地域社会、市役所との連携・協働の必要性は60%以上が感じているが、  
実際に連携・協働しているのは30%以下
- 連携協働において「関係者から出された意見や要望に対する検討・反映」を4割が  
行うと回答
- 市の支援として、「地域社会への参画を行っていない」事業者は、取り組み事例に  
関する情報提供を求めている
- 健康とは、「心身ともに健やかなこと」「仕事ができること」と考えている
- 「子育てしやすいまち」の満足度が高い。「ふるさと意識が持てるまち」の満足度  
が低い

### ④市民活動団体調査

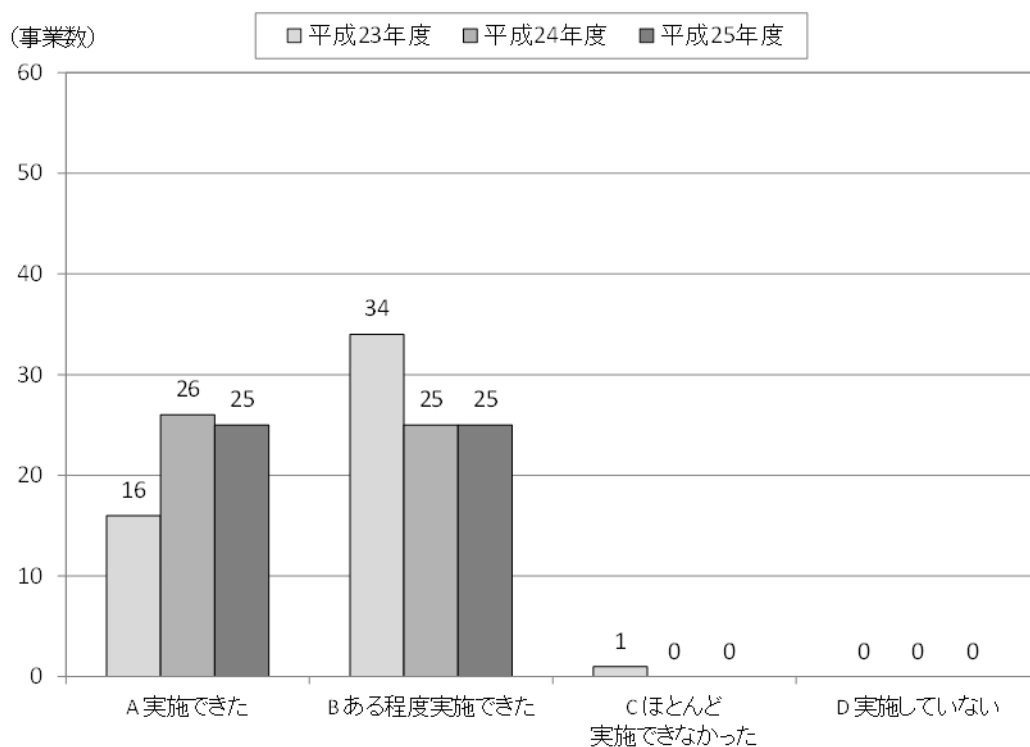
- 「団体の活動分野」は福祉分野が約26%。「団体の人数」は10~20人の団体が38%  
「団体の中で多い年代」は60歳以上が79%
- 計画を「内容まで・名前まで知っている」割合は78.8%、条例の認知度は71.2%

- 「活動を継続していく上での課題」は「参加者の高齢化」や「新しい人材の確保」
- 「健康づくりの推進で知りたい情報」は「市が実施している健康づくりに関する施策」で42%
- 「回答者の活動目的」は、「人との交流」42%、「社会貢献」26%
- 活動の参加が自分の健康につながっていると感じている
- 健康とは、「心身ともに健やかなこと」「前向きに生きられること」
- 「地域や地区で協力、助け合いができるまち」の満足度が高い  
「障がいをもった人が生活しやすいまち」の満足度が低い

## (2) プロセス評価と成果評価

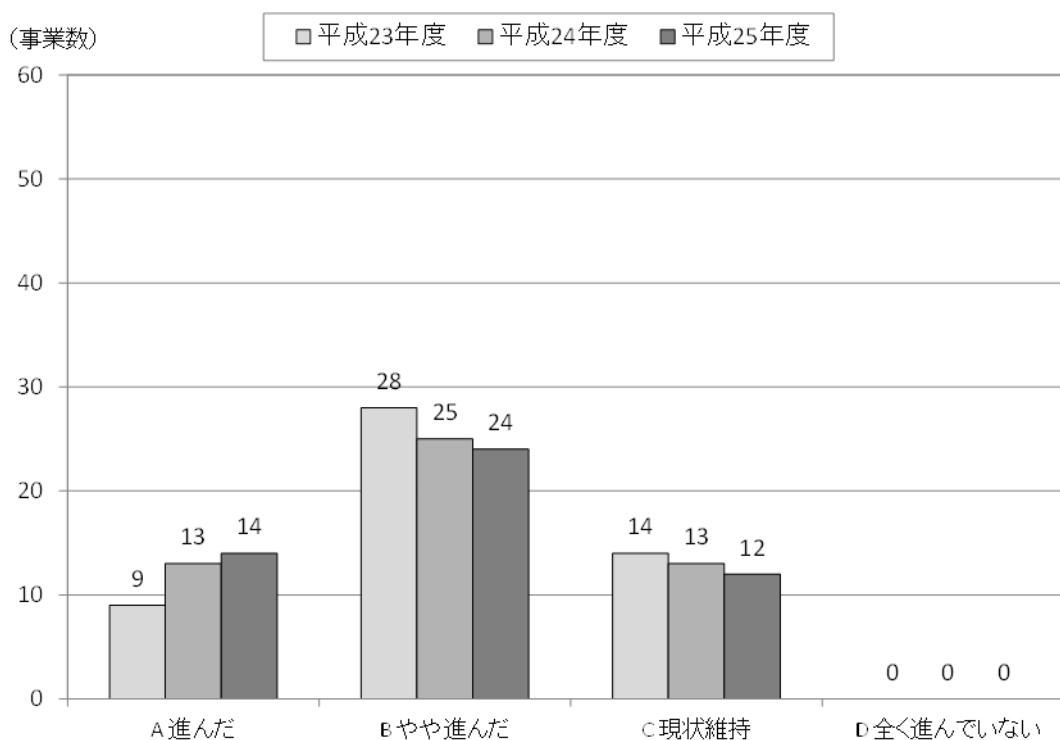
第3期計画では、18の「めざす姿」ごとに51（平成25（2013）年度からは50）の重点事業を設定して、プロセス評価と成果評価を実施しました。

### ① 「事業の達成度」と評価別事業数（平成23～25（2011～2013）年度実施事業）



「事業の達成度」は平成23（2011）年度以降の3か年において、ほぼすべての事業について、「実施できた」または「ある程度実施できた」という評価結果となりました。

②「めざす姿」の進捗度別事業数（平成23～25（2011～2013）年度実施事業）



「めざす姿に向けた進捗度」は、「進んだ」または「やや進んだ」と評価した事業数が平成23（2011）年度は37事業（72.5%）、平成24（2012）年度は38事業（74.5%）、平成25（2013）年度は38事業（76.0%）となりました。

③領域ごとの進捗度（「A 進んだ」と「B やや進んだ」の割合）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平均
1 日頃の健康づくり	75.0%	68.8%	62.5%	68.8%
2 食生活	100.0%	75.0%	100.0%	91.7%
3 心の健康	75.0%	87.5%	87.5%	83.3%
4 地域活動	69.2%	76.9%	84.6%	76.9%
5 暮らしやすさ	80.0%	80.0%	60.0%	73.3%
6 環境	40.0%	60.0%	60.0%	53.3%

「めざす姿に向けた進捗度」を領域別にみると、平成23（2011）年度以降の3か年における「進んだ」と「やや進んだ」の割合は、「食生活」が91.7%で最も高く、以下、「心の健康」（83.3%）、「地域活動」（76.9%）、「暮らしやすさ」（73.3%）、「日頃の健康づくり」（68.8%）。「環境」（53.3%）となりました。

### (3) 健康なまち習志野評価委員会

平成26年1月と同7月に開催された評価委員会では、健康意識調査の結果および第3期計画の評価に関して、以下のようなご意見をいただきました。

#### ○計画の周知状況について

- 認知度は張っていてもなかなか急に上がらないのが常。チラシ・ホームページ等の見えるところに載せる仕掛けは必要だが、自分が巻き込まれないとその中身まではわからない。名前を知るような仕掛けと、イベントごとに習志野の取り組みの中身の事を知らせるようなことを増やしていく仕掛けが大切だと思う。じわじわしか上がらないが。

#### ○健康行動について

- 日常生活行動というのは、ある程度続けてやらないといけないので、やろうと思った時にすぐに行動に反映しない分野。そのあたりの仕掛けをしていく必要があると思う。

#### ○周辺地域の人とのつながりが弱いことについて

- ソーシャルサポートはその人の幸福度に影響する。周りの支えは凄く大切なので、自然に出来ているとか、従来からその地区でできているというネットワークを超えて、何らかこれらを強化するような仕掛けが必要と思う。

#### ○事業所について

- 従業員の人数が5人未満の事業所が46.3%で、どうしても5人未満で専門の人を付けるというのは難しい気がするが、従業員の健康に取り組んでいかないといけない。こういった方たちに相談をすればいいのかを明確に出してあげられるといい。
- 市内の事業所の中で、健康に対して頑張っている事業所には、経営審査会の点数を上げてもらうなど裏からの支援をやったらいいかという気がする。
- 健康意識調査に答える事によって教育的な効果が生まれ、事業所自体が考えるいい機会となるので、そういう意味で回収率を上げることが大切だと思う。

#### ○アンケート調査について

- 健康に関するインフォメーションを同封すると、協力しようという気持ちも生まれ、回収率が上がるのでは。

## ○学校との関わりについて

- 学校を中核としたその地域（中学校区程度）の健康づくりには学校というのは非常に役に立つ。今、地域との連携はとても行われているはずで、学校を見るとかなりいろいろなことが行われているはず。子どもを通じて教育すると比較的教育効果が上がりやすい部分もあると思うので、次期の計画の中では、意識的に入れられてもいいのかなと思う。

## ○今後の評価について

- 評価者が変わっても、ある程度標準化された形で同じになるような評価方法にすると、各事業・各課でやっていることの評価がはっきりしてくる。喜びを感じられるのではないか。
- 客観的評価をシートに入れた方がよいという意見には確かに一理ある。しかし、やりやすい項目とやりにくい項目があって、実際に客観的指標をあまりに入れすぎると、やれども評価が達成できなくて空しさだけが残るということがある。ただ、工夫できる部分もあると思う。情報の周知といってもどう行動したかというのが非常に重要なので、周知した結果どうだったか、という点を入れていけばいいと思う。ただ、人間関係が良くなると、幸せ度が高まるということの評価するとなると難しいと感じた。
- 主観的な評価も、長年取ると習志野の状況と関係性が出てくると見た方がいい。こういうデータは継続して初めて物事が見える。標準化された方法を工夫してみてもいい。

#### (4) めざす姿別の評価

健康意識調査の結果、プロセス・成果評価、日頃の取組みを踏まえ、めざす姿ごとに評価を実施しました。

領域1	日頃の健康づくり									
めざす姿1	すすんで「歩く」まち									
内容	身近で、すぐのできる運動として「歩くこと」を継続するまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)		第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下	
		「普段なるべく歩く」を「必ず実行している人」の割合	30.6%	37.2%	36.0%	50.0%	未達		-	●
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (達成又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	ハミングロード再生 実施プラン推進	ハミングロード再整備事業による、整備キ ロ数の割合		18.4%	22.96%	23.39%	33%	未達	-	-
	「オール習志野歩け 歩け大会」の開催	大会参加者数		444名	216名	271名	450名	未達	●	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
ウオーキングマップ の活用	市民がマップを受け取れる場所を増やす ためにどのように取り組みを進めることが 出来たか。		H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価				
			やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ				
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○普段なるべく歩くことについて、「30歳～40歳代」の実行率は26～27%、「会社員・自営業・公務員」の実行率は30～31%と他の年代よりも低い。</p> <p>○暮らし向きの苦しさや心配が増すほど、実行度は低下する傾向がある。</p> <p>○「歩くことが大切なことだと思う人(84.4%)」の実行率は39.4%と、「どちらともいえないと思う人(8.6%)」の実行率13%に比べて高い。</p> <p>○歩くことの重要さの認識については、毎年少しずつ増加しているが、高止まりの傾向がみられる。</p> <p>○「学生」は調査数自体が少ないものの、実行率(18.2%)や「歩くことが大切なことだと思う人(63.6%)」の割合が、他の職業に比べて低い。</p> <p>○実行率が市の平均より低い地区は、鷺沼、屋敷、奏の杜、谷津町、泉町、香澄、東習志野、本大久保。</p>									
D. 課題	<p>○「30歳～40歳代」、「会社員・自営業・公務員」については、実行に移せるような仕掛けの検討。</p> <p>○産業保健との連携の検討。</p> <p>○歩くことの重要さを認識している人には実行に移せるような仕掛けを、認識していない人にはまずは知識の提供と、分けて取り組むことが必要。</p> <p>○「学生」等の若いうちから自らのライフステージを通じた体の変化を学ぶ必要性。</p> <p>○暮らし向きの苦しさや心配が増すほど、実行度は低下する傾向があるため、配慮が必要。</p>									
<small>(「A. 目標項目」の目標達成のため必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</small>										

領域1	日頃の健康づくり									
めざす姿2	楽しく運動に取り組むまち									
内容	市民がそれぞれの年齢・体力・健康状態に応じた運動を楽しく実践するまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下		
	健康づくりのための 運動を「必ず実行」 「たまたま実行」の人	64.1%	71.5%	64.1%	74.0%	未達	-	●		
	目を開けた状態で 何もつかまらずに片 足で20秒立っている 高齢者 [65～74歳][男性]	69.7% (H19年度)	81.8%	-	80.0%	☆達成	-	-		
	同 [75歳以上][男性]	41.2% (H19年度)	47.1%	-	60.0%	未達	-	-		
	同 [65～74歳][女性]	73.4% (H19年度)	72.2%	-	75.0%	未達	● (第2期実績)	-		
	同 [75歳以上][女性]	38.2% (H19年度)	43.4%	-	50.0%	未達	-	-		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	勤労福祉施設の開放	勤労会館体育館の利用率		一般89% 勤労21.6%	一般87.5% 勤労22.2%	一般89.4% 勤労26.7%	一般93% 勤労25.6%	未達	-	-
	メタボリックシンド ローム予防教室事 業	メタボリックシンドローム予防教室終了3 か月後に定期的に運動をしている人の割合		45.85% (H23年度)	46.1%	-	40%以上	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
			H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価				
	障がい者が参加出 来るスポーツ活動等 の情報提供を行う	障がい者のスポーツ情報等を積極的に周 知出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ			
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○健康づくりのための運動について「30歳代」の実行率は50.7%、「40歳代」の実行率は57.2%と他の年代よりも低い。また、「会社員・公務員」も56%～57%と低い。</p> <p>○暮らし向きの苦しさや心配が増すほど、実行度は低下する傾向がある。</p> <p>○「健康づくりのための運動が大切なことだと思う人(84.3%)」の実行率は68.4%と、「どちらともいえないと思う人(8.6%)」の実行率45.5%に比べて高い。</p> <p>○現在、「日頃から日常生活の中で健康のために意識的に身体を動かしていない人(26.4%)」が考える運動ができる条件は、「時間」が約53.6%、施設19%、環境18.1%、など。また、その他として、「子供を預けられる、子供と一緒にいること」「きっかけ」「お金」など。「意識的に身体を動かしている人(72%)」の内容はどの年代も「通勤・通学・買い物」で行っていることが多く、次いで、「ジョギング・ウォーキング」、「自宅でできる体操」、「スポーツ施設等」など。</p> <p>○「意識的に身体を動かしている人」が少ない傾向にある地区は、奏の社、屋敷、鷺沼、泉町、本大久保など。</p>									
D. 課題	<p>○「30～40歳代」「会社員・公務員」の人のライフスタイルにあった取組み</p> <p>○時間がない中でもできる運動や身体活動の普及</p> <p>○子どもと共に体を動かすことができる取組み</p> <p>○地区別の「身体を動かすことについての傾向」に関する現状の確認</p>									
	<p>(「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</p>									



領域1	日頃の健康づくり							
めざす姿3	正しい情報が得られるまち							
内容	健康に関して、市民の皆さんに適切で、正しい情報が提供されるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未 達成)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下
	健康に関する情報 入手を「必ず実行」 「たまたま実行」の人	71.7%	71.2%	69.2%	82.0%	未達	●	●
	性感染症について 知っている高校生 「エイズ」	96.7%	94.2%	-	100.0%	未達	● (第2期実績)	-
	同 「クラミジア」	60.0%	47.7%	-	100.0%	未達	● (第2期実績)	-
	同 「淋病」	23.3%	16.1%	-	100.0%	未達	● (第2期実績)	-
	薬物を「使ったり、 持っていたりするの は悪いこと」と答える 高校生	61.3%	62.6%	-	100.0%	未達	-	-
	メタボリックシンド ロームについて内容 を知っている人	65.5% (H19年度)	69.5%	70.7%	80.0%	未達	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価	
	広報習志野、市ホー ムページ、テレビ広 報「なるほど習志 野」での各種お知ら せ	健康部門と連携し、健康に関する正しい 情報が得られるよう、継続的に周知出来 たか。		進んだ	進んだ	進んだ	進んだ	
ホームページ情報 の充実	市民にわかりやすい表現方法で各種健 康診査の情報を継続的に提供出来たか。		現状維持	現状維持	現状維持	現状維持		
C. 「A. 目標項 目」の目標達成 又は未達の理由	<p>○健康に関する情報については、広報紙・ホームページをはじめ、保健事業全般において発信をしているが、市民の情報の入手経路としては、8割以上がテレビ、次いで、新聞(51%)、本・雑誌(46%)、友人・知人(37%)、インターネット(36%)、医療機関(29%)の順に多く、広報紙は15%程度。</p> <p>○性別で比較すると、テレビ以外では男性はインターネット(46%)、女性は友人・知人(48%)、本・雑誌(51%)から情報を得ていることが特長としてみられる。</p> <p>○年齢別に比較すると、20歳～40歳代までは、インターネット、本・雑誌が多く、50歳代以降は新聞、本・雑誌から情報を得ている傾向がみられる。</p> <p>○健康に関する情報を入手していない割合が高いのは、20歳代(53.7%)や公務員(42.5%)、会社員(41.5%)、家計が苦しく非常に心配な世帯(46.3%)。</p> <p>○当然ではあるが、健康状態が良くない人ほど、医療機関で情報を得ている。</p>							
D. 課題	<p>○特に健康に関する情報を入手していない割合が高い、20歳代や公務員、会社員が情報を入手しやすい方法の検討。</p> <p>○家計が苦しく非常に心配な世帯が情報を得やすいような配慮。</p> <p>○近年の脱法ドラッグの蔓延を考え、高校生の薬物に関する正しい認知率を高めるため、継続して学齢期の子どもに対するの教育を充実させていく必要がある。</p>							
<small>(「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと、すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</small>								

領域1	日頃の健康づくり							
めざす姿4	みんながすすんで健康診断・予防接種を受けるまち							
内容	自分や家族の健康に関心を持ち、コントロールできるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未 達成)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下
	適正体重を維持して いる人	67.3%	70.4%	69.5%	80.0%	未達成	-	●
	年に一度は健康診 断を受ける人 「成人・高齢者」で 「必ず実行」の人	59.9%	60.7%	61.9%	70.0%	未達成	-	-
	同 「親子」で「必ず実 行」「たまたま実行」の 人	38.3%	42.5%	59.2%	50.0%	☆達成	-	-
	子どもの定期予防 接種の実施率(特に 麻しん風しん1期に ついて)	114.5% (H19年度)	96.8%	100.6%	95.0%	☆達成	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価	
	国民健康保険加入 者への人間ドックに かかる費用助成	国民健康保険短期人間ドックの費用助成 について積極的に周知出来たか。		現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	
がん検診・成人歯科 健康診査	各種健康診査の情報について積極的に 周知出来たか。		現状維持	現状維持	現状維持	現状維持		
C. 「A. 目標項目」の目標達成 又は未達の理由	<p>○20歳代は、体重について「肥満」より「低体重」の割合が高い。その他の年代については、「低体重」より「肥満」の割合が高く、特に、40歳以降での割合が高い。</p> <p>○40～50歳代では健康診断を「毎年受けている」が約70%であるが、60歳代では54%に低下。60歳代では、健康診断の受診場所が「市が実施する健康診断」の割合が多く、その他の項目の割合は低い。また、健康診断の受診状況について、目標値を上回っている職業は公務員と会社員のみ。自営業、専業主婦(夫)、無職では低い割合となっている。また、加入医療保険では、国民健康保険加入者の「毎年受けている」割合が55.4%と最も低い。</p> <p>○健診を受けない理由について、20～40歳代では「受けに行く時間がない」「受診方法がわからない」「面倒だった」の割合が高く、関心はあるが行動には結びついていない状況である。50歳以上では、「面倒だった」も高いが、年齢が上がるにつれ「医療機関で治療している」の割合が高い。</p> <p>○定期的ながん検診の受診について、すべての年代において「大切なことだと思う」が高い割合であるが、実際の受診については、20～30歳代で「実行していない」割合が高い。</p> <p>○親子の健康診断について、健康相談・健康診査で健診の重要性についての周知を強化したことにより、目標が達成されたと考える。しかし、20歳代の「実行してない」の割合が高い。また、職業別では、派遣・パート・アルバイト・フリーターの割合が高く、家族背景では、本人と子どもおよび本人と子どもと親の割合が高かった。</p>							
D. 課題	<p>○性別および年代別における適正体重に関する正しい知識の普及。(20歳代→「低体重」傾向、30歳代以上→「肥満」傾向)</p> <p>○退職者が定期的な健康診断を継続できるためのシステム作り。(広報活動など)</p> <p>○国保加入者の健診受診率向上のための分析および施策の検討。</p> <p>○20～50歳代に対して受診行動につながるよう、健診(健康診査・がん検診)の必要性についての周知を強化。</p> <p>○健康相談・健康診査での健診の重要性についての周知の継続。特に、20歳代の若い世代に対するの周知を強化。また、ひとり親や派遣・パートタイムなど雇用先での健診機会がない人に対する健診の周知と受けやすい体制の検討。</p>							
(「A. 目標項目」の目標達成のため に必要なこと。すでに目標を達成 している場合は、実績値を維持・ 向上させていくために必要なこと)								

領域1	日頃の健康づくり							
めざす姿5	たばこやお酒の正しい知識をもって行動するまち							
内容	妊婦や子どもの健康に対するたばこやお酒の影響を知り、みんなで協力して、受動喫煙防止の徹底やお酒の害から守られるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より悪化	第3期実績値が 第2期実績値より悪化
	高校生の喫煙率	12.0%	5.8%	-	0.0%	未達	-	-
	高校生の飲酒率	51.3%	25.8%	-	0.0%	未達	-	-
	飲酒のきっかけとして「親・親戚からすすめられて」	37.6%	28.6%	-	0.0%	未達	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標			めざす姿に向けた進捗度			
					H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価
	庁舎における分煙	市の方針に沿って対策を図ることが出来たか。			やや進んだ	進んだ	進んだ	進んだ
	母子健康手帳の交付	喫煙の害について積極的に周知出来たか。			やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ
	補導活動、地域で見守るという社会環境の整備	補導委員連絡協議会との連携を継続的にしながら、効果的な見守りが出来たか。			現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	たばこの害や未成年の飲酒についての知識は普及しつつあり、「高校生の喫煙率」および「高校生の飲酒率」、親・親戚に進められた飲酒はいずれも大幅に減少傾向であるが、子どもたちだけでなく、親も巻き込んだ啓発は途上である。							
D. 課題	学校保健分野と連携し、一層中高生への啓発を進めていく必要がある。							
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕							

領域1	日頃の健康づくり							
めざす姿6	互いの「いのち・性」を大切にすま							
内容	自分だけでなく他人も思いやり、互いのいのちを大切にすまをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下
	自分以外の人にやさしく接している人「成人・高齢者」	43.9%	47.1%	43.4%	54.0%	未達	●	●
	同「親子」	40.0%	45.3%	50.8%	50.0%	☆達成	-	-
	同「高校生」	37.3%	48.4%	-	47.0%	☆達成	-	-
	子どもに性教育をしたことがある人	27.8%	27.9%	28.2%	50.0%	未達	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標			めざす姿に向けた進捗度			
					H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価
	ママ、パパになるための学級	いのちの大切さについて積極的に啓発出来たか。			やや進んだ	やや進んだ	現状維持	やや進んだ
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	成人・高齢者の中では、「男性」、「40歳代」、「会社員」で自分以外の人にやさしく接している人が少なかった。大切な事だと思いつつも、仕事や生活が多忙な中、なかなか他人を思いやる余裕がないことが伺える。親子については順調に増えているが、これは、妊婦から幼児に至るまでの各種保健事業、育児に関して相談できる環境、周囲から得られる協力などにより、母にも良い効果が表れているためと思われる。子どもの性教育については、学校で行うことが望ましいと考える保護者が約7割いることから、実際に自ら行ったことのある人は伸び悩んでいる。しかし学習機会があれば受講したいという人も4割ほどいる。							
D. 課題	○継続して事業の中で夫婦として一緒に育児をしているというパートナーシップの重要性を引き続き伝えていく必要がある。また出産後も命の大切さについて子供達へ伝えていけるように講義の中で伝えていく必要がある。 ○子どもを持つ親が子どもの年代に応じた性教育をするための学習を受ける機会が必要である。							
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕							

領域1	日頃の健康づくり										
めざす姿7	「歯の健康」に取り組むまち										
内容	自分の歯でも入れ歯でも、誰もが食事や会話を生涯楽しめるまちをめざします。										
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下			
	3歳児歯科健康診査 でむし歯のない人	68.2%	81.9%	82.0%	80.0%	☆達成	-	-			
	かかりつけ歯科医を 持って定期健診を受け る人の割合	22.3%	31.5%	31.5%	32.0%	未達	-	-			
	在宅の介護保険申 請者で相談できる かかりつけ歯科医を 持っている人	-	67.6%	-	60.0%	☆達成	-	-			
B. 重点事業	事業名	成果指標			H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	ママ、パパになるための 学級、1歳6か月児・3 歳児健康診査、成人歯 科健康診査、歯科医師 による健康相談・健康 講座、健康教育、健康 相談、在宅歯科訪問診 療、歯科訪問指導、健 康フェア	健康意識調査(成人・高齢者)において、 「かかりつけ歯科医を決めている」と回答 する人の割合			70.9%	-	74.8%	73.9%	☆達成	-	-
	小・中・高等学校で の定期歯科健康診 査	給食後の歯みがき実施校の割合			78% (H23年度)	100.0%	95.7%	100%	未達	-	●
		児童生徒全員に年1回歯の汚れの検査を 実施する学校の割合			22% (H23年度)	60.9%	56.5%	90%	未達	-	●
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○子どもの口腔清掃や甘味食品摂取のコントロール、歯科医院での予防処置や定期健診等、むし歯予防に対する保護者の関心や意識が高まっており、3歳児歯科健康診査でむし歯のない人が80%以上に達成した。</p> <p>○在宅療養者でかかりつけの歯科医を持つ人の割合は、第2期計画の段階で、すでに目標値の60%以上を達成しており、今回調査はしていない。しかし、成人の健康意識調査の結果から、かかりつけ歯科医がある人の割合は74.8%と年齢が上がるほど高率であり、かかりつけの歯科医を持つことの意義が市民に定着している。在宅療養者においても引き続き、かかりつけの歯科医を持っていると判断した。</p> <p>○かかりつけ歯科医を持って定期健診を受ける人の割合は、31.5%と目標値をほぼ達成している。受診目的が「痛み等の自覚症状があった」と回答した人は、46.4%と第2期計画の実績よりも8.6%減少している。また、歯石・歯の汚れをとるため41.5%、歯みがき指導を受けるため4.4%（重複回答）とともに増加傾向で、健康管理的な受診が増えている。</p>										
D. 課題	<p>1年間での歯科受診経験では、診てもらった人は59.3%、診てもらいたかったが行けなかった人17.7%、必要がなかった20.5%だった。診てもらいたかったが行けなかった理由は、忙しかったが58.5%、どこの歯科医院に行けなかつたかわからなかったが17.6%だった。口腔健康管理の意識を高める、歯科受診しやすい環境づくり、歯科受診のきっかけづくりが必要。</p> <p>目標：●思春期に負けない丈夫な歯を作ろう！ ①う歯のない3歳児の増加(90%以上)、②12歳児でむし歯がない者の増加(25年度57.5%→65%)、③12歳児の永久歯の一人平均むし歯1本以下●過去1年間に歯科健康診査を受診した人の増加(65%)</p>										
(「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)											

領域2	食生活									
めざす姿8	「食の健康」に取り組むまち									
内容	毎日、楽しくおいしく食事をとり、健康的な食習慣が実践できる生活について考え、食育に取り組むことができるまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	20歳代の朝食「ほとんど毎日食べる人」	56.3%	63.5%	62.7%	66.0%	未達	-	●		
	「バランスのよい食生活」を「必ず実行している」人	36.7%	40.6%	37.9%	47.0%	未達	-	●		
	毎日朝食を食べる「小学生」	91.6%	94.2%	-	94.0%	☆達成	-	-		
	毎日朝食を食べる「中学生」	81.0%	88.6%	88.2%	90.0%	未達	-	●		
	食事バランスガイドについて内容を知っている人	23.3% (H19年度)	25.2%	22.9%	60.0%	未達	●	●		
	外食及び食品購入時に栄養成分表示を見る人「男性」	28.3% (H19年度)	29.8%	27.9%	40.0%	未達	●	●		
	外食及び食品購入時に栄養成分表示を見る人「女性」	46.3% (H19年度)	49.5%	50.8%	55.0%	未達	-	-		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	習志野市保育所年齢別食育計画作成、家庭での食事アンケート実施	毎日、朝食を食べる割合(4、5歳児)		-	94%	96%	98%以上	未達	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価			
	離乳食教室	多くの参加を募るため、対象者に離乳食教室開催の日程を周知徹底出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	進んだ			
	あじさい療育支援センターで「たべものだよ」を配布 保護者の調理実習	・保護者にとって役立つ情報を提供出来たか。 ・その情報を保護者は活用し、満足出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ			
料理教室の開催	定員に達する参加者数があったか。 参加者は満足したか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ				
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	各機関において健康的な食習慣の形成および実践及び食育の推進にむけた取り組みをすすめており、部分的には食習慣の改善がみられた。しかし全体的には、「食」に関する知識の普及や意識の高まりは見られるものの、実践に結び付けるための働きかけが不十分であった。									
D. 課題	健康的な食習慣の実践および食育の推進にむけて知識の普及・啓発について引き続き各機関において取り組みをすすめていく。知識の普及・啓発に合わせて、各個人が実践できるように具体的に働きかけていくことが必要である。また各年代ごとに切れ目なく取り組みが進められるよう各関係機関が連携をとりあいながら推進していくことが必要である。									
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕									

領域3	心の健康									
めざす姿9	笑顔であいさつしあえるまち									
内容	ストレスに負けないよう、みんなが笑顔を大切に、元気よくあいさつする活力あふれたまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	ストレスを感じても、それを「解消できている」人	60.2%	56.3%	56.6%	70.0%	未達	●	-		
	自分から周りの人にあいさつを「必ず実行している」人	59.4%	65.1%	62.2%	70.0%	未達	-	●		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	健康に関する本の提供	一般書の蔵書冊数の内、健康、医療に関する分野の本の割合		2.8%	2.9%	2.9%	3.0%以上	未達	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価			
	職員研修事業(接遇研修)	窓口で気持ち良い対応を職員全員心がけることが出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ		やや進んだ		
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○ストレスを「解消できている」人は策定時より減少している。「あまりできていない」人は、平均では35.1%だが、無職(43.2%)、自営業(40.0%)、派遣・パート・アルバイト・フリーター(39.2%)は高く、雇用や仕事の安定が関係していると推察できる。「まったくできていない」人は、平均では7.8%だが、趣味や楽しみがない人(22.7%)、家計が苦しい世帯(20.6%)と高い。</p> <p>○自分から周りの人にあいさつを「必ず実行している」人は、男性より女性、年齢が若い人より高い人に多い。</p>									
D. 課題	<p>○根本的には、精神的な健康面に影響する雇用の安定について何らかの取組みが必要と思われる。</p> <p>○あいさつしやすい地域の雰囲気の形成により孤立感をなくすことでも、精神的な健康の向上につながることから、そちらの面からの働きかけも必要である。</p>									
	<small>「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと</small>									

領域3	心の健康									
めざす姿10	仲間づくりができるまち									
内容	同世代の人、子育て中の人など生活上の課題を同じくする人が集まり、交流の場を持つことで悩みや問題を解消し、積極的に社会参加できるまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	「楽しい人間関係づくり」を「必ず実行している」人	33.9%	34.4%	32.0%	44.0%	未達	●	●		
	「周囲に悩み事等打ち明けられる人」がいる「60歳以上の」人	70.0%	79.5%	75.8%	80.0%	未達	-	●		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	地域デビュー支援事業の実施	市民活動参加者の数 「地域活動出合いフォーラム」定員100人のうち30人が市民活動に参加する		10人	60人以上	52人	30人	☆達成	-	●
	ステップならしの(男女共同参画センター)の運営	男女共同参画センター利用者数 ※研修室とフリースペースの利用者		17,428人	20,409人	20,921人	18,000人	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価			
	4か月児健康相談	事業で仲間づくりを意識した支援を実施出来たか。		現状維持	やや進んだ	進んだ	やや進んだ			
	高齢者のクラブ活動	老人クラブ連合会もクラブ会員増強に取り組んでいるため、その活動支援として老人クラブ活動を広く周知し、クラブの新規会員増加に貢献出来たか。		現状維持	やや進んだ	やや進んだ	現状維持			
福祉センターでのサークル活動	多くの方に参加していただくため広報及びホームページ等により幅広く周知を行うことが出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ				
各公民館での講座・文化祭の開催、サークル活動の支援	公民館主催講座の情報について積極的に周知出来たか。		進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ				
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○市の各種事業において仲間作りや社会参加を目的として取組みが進んでいるが、目標達成までは至っていない。</p> <p>○市民活動団体に所属している会員は、健康とは「前向きに生きられること」(54.5%)と捉えている割合が、一般の市民(45.3%)と比べて多い。</p> <p>○楽しい人間関係づくりが大切だと思っている人(76.9%)でも「必ず実行している」人は32%。「必ず実行している」人が多いのは、自営業(43.2%)、専業主婦(43.7%)。「実行していない」人は、女性(8.7%)に対して男性(21.7%)が多い。無職の人(23.3%)、家計の苦しい人(37.3%)、健康状態の良くない人(45.8%)も実行していない率が高い。</p> <p>○心理的苦痛を感じている人の割合は16.5%と国の現状10.4%より多く、性別では女性(15.3%)よりも男性(18.2%)、年齢別では、20、30、40歳代(22.4%~25.8%)に多い。</p> <p>○「悩み事を打ち明けられる人」は78%いるが、「いない」人(平均18.8%)は一人暮らしの世帯(24.5%)や家計が苦しい世帯(37.3%)に多い。</p>									
D. 課題	<p>○比較的高齢者の参加が多い仲間づくりに関連する事業は充実しているが、30~40歳代向けの対策が少ない。</p> <p>○一人暮らしや家計の苦しい人、無職の人への配慮が必要。</p> <p>○市民が公益的活動に接してもらう機会を増やすことが重要なので、出合いフォーラムや応援フェアなどのイベントを増やす。</p> <p>○団体の体験者受入れ体制を充実させるため、団体に対してレクチャーなどを行う。</p>									
	<p>(「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</p>									

領域4	地域活動							
めざす姿11	「人育て」をすすめるまち							
内容	地域社会づくりの中心となるリーダーを育て、それが引き継がれるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下
	健康づくりに関連する市民ボランティアの登録数	454人 (H19年度)	503人	503人	増加	☆達成	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
			H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価		
	転倒予防体操推進員	ひとりひとりの転倒予防体操推進員が自分に合った活動を、満足感を持ってできるように支援ができていたか。	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ		
	高齢者相談員	市と高齢者相談員との情報共有を積極的に行うことが出来たか。	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ		
	習志野市民カレッジ	地域活動やボランティア活動への意識涵養を図るカリキュラムづくり、情報提供を行うことが出来たか。	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ		
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	健康づくり推進員、転倒予防体操推進員及び認知症キャラバン・メイトについては、養成講座により、ボランティアの増加に努めた。また、各ボランティアについては、活動支援を実施し、継続性をもたせた。							
D. 課題	地域で健康なまちづくりをすすめるためには、ボランティア等主体的に活動する人材を増やし、継続した活動へ結び付けることが重要である。そのためには、ボランティアひとりひとりが自分にあった活動をやりがいをもって行えるよう、地域における活動の場の提供、活動状況の把握やボランティア同士の交流等の支援をしていく必要がある。							
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと、すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕							

領域4	地域活動									
めざす姿12	世代を超えたふれあいのあるまち									
内容	だれもが気軽に立ち寄れる、地域に根ざした参加・交流の機会にあふれたまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	「地域や地区活動への参加」を「必ず実行」「たまに実行」の人	31.4%	37.0%	36.0%	41.0%	未達	-	●		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度実績値	H24年度実績値	H25年度実績値	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	H25年度実績値がH22年度実績値より低下	H25年度実績値がH24年度実績値より低下
	ファミリー・サポート・センター、家事支援ファミリー・サポート・センター、ショートステイ・ファミリー・サポート・センター各運営事業	ファミリー・サポート・センター、家事支援ファミリー・サポート・センター、ショートステイ・ファミリー・サポート・センター各事業に係る利用会員数		2,889人	3,225人	3,743人	3,000人	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
			H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価				
	福祉ふれあいまつり	事業の開催について、市民・障害者団体に積極的に周知をしたか。	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持				
健康フェアの実施	健康フェアの中で、どの年代の人が来場しても参加できるコーナーを企画、実施出来たか。	現状維持	現状維持	やや進んだ	やや進んだ					
子ども会に関する総括	異世代間交流や地域活動への参加を図るような支援が出来たか。	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持					
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	○「地域や地区の活動に参加すること」を「大切」だと思う人は47.8%。「どちらともいえない」と思う人は39.9%と多い。 ○参加している人は、70歳以上(48.8%)、専業主婦(45.4%)、公務員(40.0%)、自営業(38.6%)が多く、会社員(20.6%)、一人暮らし(22.6%)、家計が苦しい世帯(16.4%)が少ない。 ○「大切」だと思う人が多いのは、自営業(63.6%)、無職(52.4%)。少ないのは、20歳代(40.3%)や60歳代(45.5%)、会社員(38.8%)。 ○地域や地区の活動に参加することを大切と思っていながら、参加していない人は49%いる。									
D. 課題	○普段より、地域で過ごすことの多い人が、地域や地区活動へ参加し、活動を大切だと捉えている。若い世代や会社員など普段地域との接点が少ない人々の声や考えを取り入れ、更に参加・交流しやすいような方法を考えていく必要がある。									
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと、すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕									



領域4	地域活動							
めざす姿13	助け合えるまち							
内容	市民、地域、学校、企業、行政などそれぞれが主体的に連携して、社会や地域の課題解決に向けて協力し、助け合えるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下
	「ボランティア活動を「必ず実行」「たまたまに実行」の人	22.7%	25.0%	21.3%	33.0%	未達	●	●
	「地域や地区で協力、助け合いができるまち」と思う人	15.6%	19.6%	27.4%	26.0%	☆達成	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価	
	町会・自治会活動への支援	「助け合えるまち」を目指して、適切な補助金の支給及び情報提供を行うことが出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	
	献血(献血推進協議会の献血啓発活動推進のサポート)	献血キャンペーンの周知及び啓発活動への継続的な協力が出来たか。		進んだ	進んだ	進んだ	進んだ	
	障害についての正しい知識の普及	障害に対する正しい理解を深めるため積極的に周知出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	
学校支援ボランティア	・年2回の会議を通して、活動の活性化を図ることが出来たか。 ・学生ボランティアの募集に力を入れることが出来たか。		進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ		
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○「ボランティア活動を「大切」だと思う人は46.4%。「どちらともいえない」と思う人は40.0%と多い。「大切」だと思っている人が多いのは20歳代(53.7%)や50歳代(53.4%)。少ないのは30歳代(39.9%)や60歳代(43.9%)。</p> <p>○大切だと思いつつも実行していない人は68.5%いる。実行している人が多いのは、専業主婦(37%)や自営業(36.4%)。少ないのは、会社員(12.5%)。</p> <p>○「地域や地区で協力、助け合いができるまち」と思う人は10年前より約12%も増えた。東日本大震災の影響も大きいと推察される。</p> <p>○「地域や地区で協力、助け合いができるまち」が「大切」だと思う人は76.7%。「どちらともいえない」は15.7%。「大切」だと思っている人が多いのは30歳代(87.7%)や20歳代(82.1%)。少ないのは60歳代(71.7%)</p>							
D. 課題	<p>○ボランティア活動を大切だと思いつつも実行できていない理由までは不明だが、実行している割合が低い人が会社員であることから、時間がないうと推察される。</p> <p>しかし、参加するきっかけや情報がないという理由も考えられ、条件を整えば活動したいと思う人が相当程度あるものと思われる。</p> <p>まずは、敷居を低く、気軽に参加できるようなところから、体験してもらうような仕組みを整えていく必要がある。</p> <p>○学校教育の分野では、平成21年度より小・中・高校の学習指導要領にも取り組みが位置づけられて推進されているため(高校では平成10年からボランティア活動に関する学修の単位認定が開始)子どもたちや20歳代の意識は高いと思われる。また、地域住民の学校支援ボランティアへの参加者数も増加している。意識の高い若い世代の力を活かす仕組みが必要と思われる。</p>							
	<small>(「A. 目標項目」の目標達成のため必要なこと、すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</small>							

領域5	暮らしやすさ									
めざす姿14	安心して出かけられるまち									
内容	すべての市民が様々な社会活動に参加し、地域の中でいきいきと暮らしていくためバリアフリー化されたまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	「障がいを持った人が生活しやすいまち」と思う人	11.0%	14.8%	21.4%	21.0%	☆達成	-	-		
	「歳をとっても安心して暮らせるまち」と思う人	23.7%	26.1%	40.5%	34.0%	☆達成	-	-		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度実績値	H24年度実績値	H25年度実績値	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	H25年度実績値がH22年度実績値より低下	H25年度実績値がH24年度実績値より低下
	放置自転車等の撤去	一年度の放置自転車等の撤去台数		5,512台	4,868台	4,151台	5,000台	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
	習志野市バリアフリー基本構想策定事業	100% 平成26年度に基本構想の策定を予定		やや進んだ	進んだ	進んだ	進んだ			
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	国が定める基本方針に基づき、バリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するための方針・事業内容等をまとめた「習志野市バリアフリー移動等円滑化基本構想」を平成26年度に策定した。									
D. 課題	<small>「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと</small> 「習志野市バリアフリー移動等円滑化基本構想」に基づき作成した「習志野市バリアフリー移動等円滑化特定事業計画」により、事業を実施する。また、事業実施後においても、整備内容の点検・評価をし、段階的・継続的な発展を図る。									

領域5	暮らしやすさ									
めざす姿15	安全な暮らしができるまち									
内容	犯罪や交通事故が少なく、安全で誰もが暮らしやすいまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値より低下		
	「犯罪や交通事故の少ないまち」と思う人	18.1%	24.9%	30.8%	28.0%	☆達成	-	-		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度実績値	H24年度実績値	H25年度実績値	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	H25年度実績値がH22年度実績値より低下	H25年度実績値がH24年度実績値より低下
	応急手当普及啓発活動推進事業	普通救命講習年間受講率		2,468人 (H23年度)	4,567人	4,793人	本市の対人口比 2.5% (4,000人)	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価			
	犯罪のない安全で安心なまちづくり事業の推進、防犯パトロールの実施等、地域安全ニュースの発行	防犯に対する啓発活動、自主防犯活動団体の増加		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ			
事故防止に関する健康教育	母子保健事業の中で、積極的に事故予防の啓発が出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	現状維持	現状維持				
各地区の消防団の活動	普通救命講習の指導員(応急手当指導員)の増加、火災予防広報の支援、訓練の指導が出来たか。		やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ				
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	○「犯罪や交通事故の少ないまち」が「大切」と思う人は88.5%いる。 ○「犯罪や交通事故の少ないまち」と思う人が10年前に比べて12%も増加しているが、これは普通救命市民受講率日本一を目指した取組みと日本一の達成や、防犯・安全に関する市民と行政の数多くの取組みが市民に見える形で伝わり犯罪発生件数が減少したことから、安心感が増したと推察される。									
D. 課題	<small>「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと</small> ○防犯意識が高まり徐々に自主防犯活動団体が増えた他、普通救命講習の指導員も増えて講習に指導員として多数参加しているが、より参加者や取組みが増えることが望ましいため、継続して行っていく必要がある。									

領域5	暮らしやすさ							
めざす姿16	安心して医療が受けられるまち							
内容	市民がかかりつけ医を持ち、適切な受診ができるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未 達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下
	かかりつけ医を持つ ている人	53.1%	58.8%	62.4%	63.0%	未達	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
	成人・高齢者健康相 談・教育、各親子の 健康に関する事業	かかりつけ医を持つことのメリットを継続 的に周知出来たか。	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価		
			現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	
C. 「A. 目標項目」の目標達成 又は未達の理由	○かかりつけ医をもっている人については、平成15年度の策定時は53.1%だったのに比べ、平成25年度の第3期実績は62.4%と増加しているが、目標達成までは至っていない。 ○乳幼児をもつ保護者に対しては、4か月児健康相談の時を中心に、その他、機会を捉えて、かかりつけ医を持つことの大切さを伝えている。							
D. 課題	市民に対して、今後も健康相談や健康教育の場を捉えて、かかりつけ医を持つことの大切さを伝えていく。							
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕							

領域6	環境							
めざす姿17	ごみのマナーを守るまち							
内容	ごみの落ちていない環境の中で、気持ちよく快適に暮らせるまちをめざします。							
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未 達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下
	「ごみが落ちていない まち」と思う人	11.7%	19.8%	30.3%	22.0%	☆達成	-	-
	ごみのマナー(分別 など)を必ず守って いる「高校生」	38.7%	49.7%	-	80.0%	未達	-	-
	同 「20歳代」	56.3%	61.3%	74.6%	80.0%	未達	-	-
	同 「30歳代」	76.4%	82.1%	84.1%	80.0%	☆達成	-	-
B. 重点事業	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度				
	ごみゼロ運動、歩き たばこ・ポイ捨て防止 キャンペーンの実施	ごみゼロ運動、「習志野市をきれいにする 会」と合同で、歩きたばこ・ポイ捨て防止 キャンペーンの実施	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価		
	芝園清掃工場、リサ イクルプラザの見学 や職場体験	施設見学や職場体験を通してごみ処理や 3Rの啓発が出来たか(学校を通して確 認)。	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	
			やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ	
C. 「A. 目標項目」の目標達成 又は未達の理由	○「ごみが落ちていないまち」と思う人は10年前と比べて約19%も増え、目標を達成していると同時に、「ごみのマナーを必ず守っている」人も大幅に増加し、一部達成できていないところもあるが、今後、同様に取組みを継続していくことで、達成が期待できる。 ○ごみゼロ運動・歩きたばこ・ポイ捨てキャンペーンについては、市民一体となって実施しているが、若い世代の参加が少ない。 ○ごみ箱の設置されていない公園や広場等の利用者がごみを置いていったり、近隣の住宅のごみステーションへ捨てていくことがあり、地域住民から問題視されている現状がある。							
D. 課題	○「ごみが落ちていないまち」が「大切」と思う人は81%あり、今後も、ごみの落ちていない環境の中で、気持ちよく快適に暮らせるよう、事業を継続して行っていく。 ○ごみ箱の設置や住民・利用者のマナーの向上など、複合化された問題について検討していく必要がある。							
	〔「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと〕							

領域6	環境									
めざす姿18	水や空気がきれいなまち									
内容	市民が協力して環境の保全に取り組み、水や空気がきれいなまちをめざします。									
A. 目標項目	指標	策定時 (H15年度)	第2期実績値 (H22年度)	第3期実績値 (H25年度)	目標値	目標達成状況 (☆達成又は未達)	第3期実績値が 策定時より低下	第3期実績値が 第2期実績値 より低下		
	水や空気がきれいなまちと思う人	14.8%	23.5%	30.4%	25.0%	☆達成	-	-		
B. 重点事業	事業名	成果指標		H22年度 実績値	H24年度 実績値	H25年度 実績値	目標値	目標達成 状況 (☆達成 又は未達)	H25年度実 績値がH22 年度実績 値より低下	H25年度実 績値がH24 年度実績 値より低下
	公共下水道の整備	行政区域内人口に対し、公共下水道を使用することができる区域内の人口の割合(下水道普及率)		86.5%	89.0%	92.0%	90%以上	☆達成	-	-
	事業名	プロセス指標		めざす姿に向けた進捗度						
				H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	第3期総合評価			
	谷津干潟の保全事業	保全の事業報告について、市民に情報提供が周知出来たか。		現状維持	やや進んだ	やや進んだ	やや進んだ			
大気汚染物質の監視および工場等への規制	二酸化硫黄、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質の環境基準達成及び維持が出来たか。		現状維持	現状維持	現状維持	現状維持				
C. 「A. 目標項目」の目標達成又は未達の理由	<p>○「水や空気がきれいなまち」と思う人は、10年前と比べて、15.6%増加し、目標を達成した。</p> <p>○大気汚染物質の監視および工場等への規制を実施することで公害問題は発生しておらず、また、公共下水道の整備により公共用水域の水質改善を行い、自然環境の保全を図ったことが要因として考えられる。</p> <p>また、干潟をきれいにする運動、アイドリングストップ、家庭の台所から油まじりの排水を行わないなど、市民の取り組みや意識の向上も要因として考えられる。</p> <p>○水や空気に関連する、「四季折々の自然の風景を楽しめるまち」と思う人については、36.6%と前回の40.4%より減少している。</p>									
D. 課題	<p>「より快適な生活環境にしたい」という市民の思いを実現するために、引き続き、取り組みを進めていく必要がある。</p>									
	<p>(「A. 目標項目」の目標達成のために必要なこと。すでに目標を達成している場合は、実績値を維持・向上させていくために必要なこと)</p>									

